令和5年度　大津市立平野小学校　学校評価書

【評定】３：よくできた　　２：できた　　１：あまりできなかった　　０：まったくできなかった

大項目	中項目		小項目	自己評価 小項目評定	自己評価 中項目評定	自己評価 現況	学校関係者評価 中項目評定	学校関係者評価 意見、提言等	今後の学校改善に向けて
Ⅰ 学びの充実と創意ある教育活動	主体的・対話的で深い学び	①	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めている	2	3	教職員全員で「主体的・対話的で深い学び」を活用した授業改善を行ってきた。そのために校内での研鑽や外部講師の招聘を活用し教職員の研修も実施した。今年度も全ての子が主体的に取り組める内容を糸口に授業づくりを行ってきた。その中で、ICTを活用したり、学級集団作りを促進したりした。今年度までの学びを生かして来年度以降も教職員の研鑽を深め、子どもの学びへとつないでいきたい。	3	・児童目線の学習の取組が大切である。 ・児童は、学習に対して苦手意識を持つと無関心になる。 ・児童個々の能力を把握し、次のステップを考えることが大切である。	校内研究を3年計画で考え、3年間の学びの成果と反省をまとめ、次年度につなげていきたい。体育科だけでなく、全ての学習活動に学びを生かしていけるよう、計画・実行していきたい。そのために今年度までの振り返りを丁寧に行い、次年度当初には全体計画を教職員全体で共有し研鑽を深められるようにしていきたい。
		②	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図るため、ICTを活用し授業の工夫・改善を行っている	3					
		③	主体的・対話的で深い学びを追求する研修を実施し、授業に取り入れている	3					
	道徳教育の充実	④	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動を実施している	2	2	毎年夏休み明けの参観では、全校道徳科の授業を行い、保護者に参観していいただいている。また、ローテーション道徳を行い、そこから得た学びを教員間で共有することで、道徳科の授業力の向上を目指している。	2	・児童だけでなく、保護者も参加できる道徳科授業は、正解が一つでないこともあり、授業終了後家庭に戻っても、その道徳価値について親子で話すことができたことは良かった。	保護者や地域の方、ゲストティーチャーの活用を行うことで、より家庭と地域社会と連携した道徳教育を推進していきたい。また道徳に関する掲示物を通して児童の意識を高め、研究授業やローテーション道徳を通して教材研究に励み、「考え、議論する」道徳授業を目指したい。
		⑤	物事を様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究を行っている。	2					
		⑥	保護者等への道徳科の授業公開を行っている	3					
	体力づくり	⑦	たくましい心と体を育てるための魅力ある授業を工夫改善している	3	3	・校内研究をもとに学年の単元計画を考え、それを各学年部で共有することにより、単元を細かくイメージした系統的な学習を仕組むことができた。 ・校内研究での授業実践や安全研修を行うことで子ども達の目指すべき姿が共通認識できたり、指導でのポイント、安全面についての配慮を考えたりすることができた。 ・楽しいと思える体育授業のための教材や設定などの研究、委員会や運動会に関わる特活イベントなど、進んで運動に取り組みたくなる環境設備ができている。	3	・一人の教員が30人以上の児童に対して安全に体育の授業を実施することは可能なのか。 体育の授業において、一人の教員で児童の動きを把握できるように、環境設定、グループ設定等を工夫することはもちろん、体育の苦手な児童でも、主体的に参加できるよう、スモールステップの活動を進めていくことが大切である。	・今年度も含めた3年間の校内研究で得た学びを来年度以降にしっかりと引き継ぎ、安全面にも配慮しながら楽しい体育活動を行っていく。 ・運動を確保する場所に限りがあるので、その中でもできる活動を考えていく。
		⑧	体力づくりを推進する運動実践に取り組んでいる	2					
		⑨	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲を育成している	3					
	（組織的・計画的）指導改善	⑩	学力向上を目指した指導体制・指導方法を工夫改善している	3	3	・令和5年度全国学力学習状況調査の結果は、全国の平均正答率と比較してみると、国語、算数ともに全国平均を上回っている。 ・各教科の学習の中で、一人一台のICT端末を効果的に活用している。また、情報モラル教育も計画的かつ継続的に実施しており、学年の発達段階に応じて児童がタブレットを適切に使用できるよう指導している。 ・情報部会を設置し、情報活用能力の育成に向けて、児童の実態を確実に捉えながら、各学年で系統立てながら指導を行っている。 ・児童の情報委員会を新たに設置し、高学年による低学年へのサポートや、タブレット端末を利用した委員会のイベントを実施している。 ・今年度も各学年の児童の実態や学習内容に応じて、学校生活支援員４名を配置し、きめ細かな対応をすることができた。さらに、ステップ学習（特定の児童に対する学習の個別対応）専属教員を配置し、子に応じた指導を充実させた。 ・web欠席連絡システム（tetoru）や校務支援ソフト、教員一人一台のタブレット等のハード面、スクールサポートスタッフの週3日の配置によるソフト面はかなり充実してきた。昨年度より導入した働き方改善シートは、教職員の働き方への意識付けにはなった。	3	・コロナ禍において、一人一台のタブレットが児童に与えられたり、保護者にはtetoruやformsを利用していただくことで、欠席状況や児童の健康観察をシステム化したりすることで、児童や保護者はもちろん教職員も楽になった。こういったことが、今後より上手に活用されて、教職員の心のゆとりにつながってほしい。教職員にゆとりがうまれれば、穏やかな気持ちで教職員が接することができ、そのことが児童の健全な育成につながると考える。	・昨年度に引き続き、全国学力学習状況調査の結果は良好であった。結果を詳細に分析すると、「自分で思っていることを言葉で表したり、聞き手にうまく伝わるよう、工夫して発表したりできる」等の本校児童の強みがあり、「話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組もうとする児童が少ない」等の弱みがあることが明確になった。強みはさらに伸ばし、弱みを改善するため、導入された一人一台のタブレットの機能を活かしながら、具体的な方策を全職員で知恵を絞り確実に推進していく。 ・昨年度一年間の取組等により、あらゆる業務について働き方改革を意識した発言が当たり前のように発せられるようになり、働き方改革の意識が少しずつ教職員の中で浸透してきている。今後も学校行事の見直しや会議内容の精選および適切な時間設定を進めながら、一人一人の教員の働き方に対する意識改善を促進し、質の高い業務につなげていく。
		⑪	教職員の指導力,情報活用能力及び組織的な教育力の向上に努めている。	3					
		⑫	働き方改革の取組と教育活動の質の改善に努めている	3					
	体験活動	⑬	各種体験活動を計画的・効果的に教育課程に組み込み、充実に努めている。	2	2	児童が主体的に活動できるよう、体験活動を実施してきた。また、様々な教科と結び付けることを心がけて実施することができた。しかし、コロナ禍からの変革期ということもあり、変更が多く、計画性には課題が残った。更に効果的な体験活動になるよう、内容の精選や計画の見直しが必要である。 夢づくりプロジェクトでは、児童会が中心となり、地域の方向けの商店街ウォークラリーや児童向けの学区内ウォークラリーを計画し実施できた。その際には、地域の方々や保護者の方々、たくさんの方に協力していただき地域のつながりを大切にした取り組みを安全に実施できた。	3	・学校夢づくりプロジェクトは、安全面が確保されなければ実施が不可能であったが、地域の方々・保護者会等の多くの協力があり、計画よりも少し縮小はしたが実施することができたことは良かった。 学校の行事に、地域や保護者を巻き込んで実施することができたことは大変良かった。	・児童の主体的な学びにつながる体験的な活動になるよう研修に力を注ぐとともに、指導計画の見直しや取り組み内容の改善に努める。
	読書活動	⑭	読書環境の整備に努め、発達段階に応じた多様な読書活動への支援を行っている。	2	2	朝の読書時間、図書サークルの方による読み聞かせなど子どもたちが読書に接する時間の確保はできた。 定期的な図書の購入により、新しい本と出会うことで読書に対する興味や感心を高めることができた。	2	・朝読書は、1時間目の授業の心構えを作るうえで大切であると考える。 ・学年や個々の児童の能力に応じて、どのような本を読めばいいのかということも重要だが、まずは読みたい本を読み、読書にふける時間を確保することは、子どもの「文字離れ」を防ぐことにつながると考える。 ・大津市では、数校学校司書が配置されているが、まだまだ数が少なく、平野小学校にはしばらく配置されていない。大津市の予算の問題ではあるが、学校は学校司書配置の希望を訴え続けることが大切であると考える。	・読んだ本を戻すところが分からない児童が多い。どの本が、どこの場所に返却するのか分かりやすい仕組み作りが必要。
Ⅱ 育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携・協働	⑮	子育てや家庭教育ついて、保護者に積極的に支援している。	2	2	・コロナウイルスの感染法上の取り扱いが2類から5類に移行し、３年間制限されていた子ども同士はもちろん地域の方々や保護者の方々との交流を感染防止に配慮しながら可能な限り復活させた。 ・感染症拡大防止のため、参観時間を短くし、保護者の入れ替え制で実施していた学習参観も、４５分間しっかり参観時間を確保し、じっくりと子どもの活動の様子や成長を見ていただけた。 ・コロナ禍のため学年ごとの避難訓練を余儀なくされていたが、３年ぶりに全校一斉の避難訓練を実施することができた。 ・11月の不審者侵入を想定した避難訓練では、昨年度に引き続き膳所駅前交番所に協力を仰ぎ、児童が休み時間大勢校庭で遊んでいる状況において不審者が侵入した場合を想定した訓練を実施した。 ・学校行事や校外学習での児童の活動の様子がわかる画像を学校HPにアップしたり、学校だよりで紹介したりする等情報発信に努めた。	2	・コロナ禍で学習参観の時間が短縮され、授業がよく分からなかったが、今年度45分間しっかりと参観することができ、授業はもちろん子どもの様子もしっかりと観察することができたことは良かった。 ・校内音楽会は、コロナ禍明けということで、今年度は児童同士の交流となり、保護者はオンデマンドによる配信という形の発表になった。来年度以降、保護者への発表という形も検討してほしい。	・新型コロナの感染症法上の位置付けが2類から5類になったとはいえ、コロナウイルスが消滅したわけでなく、またインフルエンザの感染についても今年度猛威を振るっていることから、学校生活における感染防止対策について全教職員の協議において再構築し、児童・保護者にとって安心・安全な学習環境を実現する。 ・保護者が学校に子どものことについて相談しやすいと感じている割合が昨年度と比較して少し減少している。保護者の悩み等の訴えを丁寧に傾聴し、その思いを共有することはもちろん、場合によっては関係機関に繋ぎ、保護者の子育てを支援する。 ・児童が自ら考え安全な場所に避難できるよう、今度休み時間や掃除時間等の授業中以外の時間に災害が発生した場合を想定した避難訓練や実施日や実施時間を予告しない避難訓練を検討する。 ・「学校での取組等をわかりやすく伝えている」と感じている保護者の割合が、昨年度と比較すると減少している。保護者へ学校だよりや学校HP, tetoru等様々なツールを活用して情報発信をしているが、まだまだ足りないのか、発信されている情報内容が保護者のニーズに合っていないのか等、情報の発信の頻度や内容について、検討する必要がある。
		⑯	積極的な情報発信に努め、参観、懇談会、研修会の実施、保護者・地域の人材活用や交流を推進している。	2					
		⑰	防災教育・感染症対策の推進等、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくりに努めている。	3					
	保幼小中の連携	⑱	子どもの校種間交流や教員の出前授業・保育を実施している	2	3	・平野幼稚園とは、昨年度まで全国発表大会を行う上で、連携を密に研究・研修を行ってきた。今年度もその連携を引き継ぎ、お互いの授業を参観し授業について意見交換をしたり、合同研修会を行ってきた。しかし2学期以降、教員の人手不足もあり、1学期ほどの連携ができていないことは課題である。大会や学校状況に関係なく、日常の中で様々な連携をしていくための基盤づくりが今後必要である考える。平野幼稚園以外の保育園・幼稚園については1学期に児童の参観・引継ぎしか行えていない。 ・打出サミットでは、打出中学校と逢坂小学校、中央小学校、平野小学校で議題を決め、校種間交流を行っている。今年度では、運動会の様子やいじめ防止への取り組み、夢プロジェクトなどの話を交流した。	3	・３小学校および1中学校が、一部の児童生徒とはいえ、オンラインで交流する意味は大きい。意見を交流することで、他小学校や進学する中学校の様子がわかり、特に中学校への不安感も解消されると考える。	平野幼稚園以外の保育園・幼稚園とは新入児の様子を参観いただいての、児童の情報交換くらいしか、4月以降の交流はできておらず、不十分である。来年度は平野幼稚園との交流を深めながらも、他の保育園・幼稚園とも交流し、互いの教育に生かせるよう、計画を考えていくべきだと考える。
		⑲	校種間の合同研修会や授業公開を計画し、実施している	3					
		⑳	保幼小中の接続期の教育課程の編成等円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究を行っている	3					
Ⅲ 組織的体制の充実	生徒指導体制の充実	㉑	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見と日常的な予防指導を行っている	2	3	日頃の子どもたちの様子を、学年間やいじめ対策メンバーで毎日情報共有して、ささいな事だと思われる案件も見逃さないように、組織を意識して早期発見に努めることができた。 若手の教員が増えてきているので、毎週の打ち合わせや職員研修で、生徒指導や教育相談における視点や方法をこまめに伝達することができた。 子育てにおける困り事等があった場合には、スクールカウンセラーや子ども発達支援センターに繋ぐ等、学校と関係機関が同時に支えられるような体制を作ることができた。	3	・他機関との連携がしっかりできている。 ・毎朝、管理職によるあいさつ、早朝あいさつ運動等を継続することにより、きちんと挨拶ができる、自分から挨拶をする児童が増えてきている。	いじめや不登校などの問題について、組織的に対応できるように、引き続き情報共有や役割分担を意識して取り組んでいく。 いじめ防止・対策について、どの教員も同じように聞き取りや指導できるように研修を続けていく。 「学校見守り隊」など、市の事業を引き続き活用して、人的不足を補えるように働きかける。
		㉒	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進に努めている。	3					
		㉓	家庭・地域・関係機関と連携しながら指導を進めている。	3					
	特別支援教育の充実	㉔	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を行っている	2	3	・校内特支委員会を毎月開催し、学年において支援の必要な児童の様子を交流することにより、ステップ学習等の取り出しによる個別対応や中長期的な見通しとして通級指導教室への接続、さらには特別支援学級入級を視野に入れた関係機関との連携について組織的に対応することができた。 ・低学年で実施している「読み書きチェック」により、発達に課題のある児童の早期発見につながり、保護者との連携もできている。 ・個別の指導計画の取扱について、学級担任の中で認識の違いがあり、共通理解ができていなかった。 ・教頭・子ども支援・別室担当の教諭が中心になって特性のある児童について関係機関と連携をはかってきた。今後は、特性を持つ児童がより楽しく授業に参加し、活動・習得していく姿を目指したい。	3	・誰一人取りこぼすことのないように、指導することが大切。 ・支援の必要な児童について、児童の課題や特性をしっかりと見極め、適切な指導や支援をすることで、児童の自立につながり、最終的には就労につながると考える。	・校内的には、管理職のリーダーシップで、より計画的組織対応ができるように、今後も校内特支委員会の継続的で積極的な働きかけを行っていきたい。 ・若い先生も増えてきており、個別の指導計画作成・活用や支援の必要な児童への適切な対応等について、計画的に研修を実施していく。 ・関係諸機関に対しては、管理職・特別支援教育コーディネータの協力のもと、担任が個に応じた合理的な配慮や支援策の作成と保護者と歩む個別の指導計画の作成に尽力をつくせる環境整備をしていきたい。今後も、特性を持つ児童の学校生活が有意義になるよう努めていきたい。
		㉕	組織的・計画的な特別支援教育体制を確立している	3					
		㉖	関係機関と連携した教育相談の充実を図っている。	3					